

探究学習・教科学習・特別活動における 徹底した振り返りで、自己を把握する力を高める

北海道登別明日中等教育学校

北海道登別明日中等教育学校では、探究学習や教科学習、特別活動など、あらゆる教育活動において、リフレクションシートや面談などによる振り返りを徹底して行い、生徒に内省を促すことで、自己を把握する力の向上に努めている。そのようにして、将来の目標を明確にした生徒が学び合いを実践した結果、進学実績は大きく飛躍した。

志望校への思いを表現し、総合型選抜で合格を果たす生徒たち

割増の33人。特に、学校推薦型選抜、総合型選抜での合格者数の増加が顕著であった。

北海道登別明日中等教育学校は、2014年度に文部科学省「スーパーグローバルハイスクール」、19年度に同「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の指定を受けるなど、グローバルリーダーの育成を目指した教育を展開している。そうした同校は、21年度大学入試で進学実績を大きく伸ばした。1学年約80人の小規模校ながら、国公立大学合格者数は前年度比3

生徒それぞれの長所や得意なことを生かして、行きたい大学に挑戦させるのが、同校の進路指導の方針だ。21年度大学入試を受験した生徒も、探究学習を通じて、自分は将来どのように社会とかわりたのかを突き詰めて考え、その実現のために6年間で培った資質・能力をしっかりと認識できていたと、20年度6年次の年次主任を務めた小島啓一先生は振り返る。「自分の関心や様々な社会課題

を知ること、志望に対するこだわりを持たせたいと考えました。そして、そのこだわりが、どうすれば他者に伝わるものになるのか、生徒同士で表現し合うことを通じて言葉を磨く場を設けました。それが結果的に、学校推薦型選抜、総合型選抜の合格者の増加につながったのだと思います」

生徒はどのようにして自身の成長や志望校への思いを「マイ・ストーリー」として表現できるようになっていったのか。探究学習と教科学習、特別活動の面から見ていく。

面談は、生徒に内面を言語化させる場

同校の探究学習は、4年次にグループによる地域課題探究、5・6年次に個人によるキャリア課題探究を行う（6年次は選択科目）。生徒が探究学習に主体的に取り組めるように、「課題探究マトリックス」を運用している。「○○の課題を知る」「○○の解決法や改善策を考える」など、A～超Dの5段階の目標を示すとともに、探究の過程を、「仮説を立てる」「条件を想定する」「効果検証」として、各

図2 「進路のしおり」身につけさせたい資質・能力のルーブリック、大学訪問のポートフォリオ(抜粋)

ポートフォリオは、成長した力・しなかった力を認識し、学習改善につなげることを意識して書かせるようにしている。
※学校資料を抜粋して掲載。

年度に6年次担任を務めた進路指
導部の寺沢英幸先生は、こう語る。
「記入時に生徒に注意したのは、
活動と資質・能力の関係性につ
いてです。『□□の活動を通じて
○○力が伸びた』というように、

自身の成長を経験と結びつけなが
ら評価する習慣を身につけてほし
いと考えました」
教科学習の振り返りでは、例え
ば、太田先生は、担当教科の国語
の授業で、ポートフォリオを活用

して自己の学びの現状を把握させ
ている(図3)と言う。

「学力を高めるためには、自分に
足りない点やつまづいている点を
客観的に捉えて、学習のPDCA
サイクルを回すことが重要です。
そのために、目標とその達成状況、
そして課題を視覚化する仕組みが
必要だと考えました」

ポートフォリオは、Google
フォーム(*)を使って科目ごと
に記録する。年度始めに、「自分
の言葉で根拠を述べられるように
する」などと、自分の学習目標を
立てた上で、定期考査や長期休業
中の家庭学習などの取り組みにつ
いて、計画と振り返りを記入する。
同ポートフォリオは、「関心・
意欲・態度」の評価対象でもある。

「学びのプロジェクト」で
キャリアの展望をストーリー化

6年間にわたる生徒の学びと将
来の夢をつなげる結節点となるの
が、6年次に行う「学びのプロ
ジェクト」だ。人生をかけて実現
したい「大プロジェクト」を掲げ、
その実現に近づくための「中プロ
ジェクト」を高校卒業後の進学先

* アンケートの作成とともに、そのアンケートの集計や分析を行えるオンラインツール。

図3 国語科「現代文B」のポートフォリオ(抜粋)

教科	国語	科目名	現代文B	単位数	2																									
<p>【問い】この小説3編を、題語で読み身に付けてみる。所収を明記してごらん。</p> <p>読まれた筆者の意図を正しく読み取らなさい。</p> <p>【問い】風評や噂で名前を知られたらどう思うか(見られていい方)は誰か。あんなに風評や噂で名前を知られたらどう思うか(見られていい方)は誰か。</p> <p>文章の読解力、筆者の意図を読み取る力</p> <p>【問い】題語の力を身に付けるために何を学ぶことは得るか。</p> <p>次の学習までに文学になるべく多く読んで読解力をもつてみる。</p> <p>【問い】題語の希望で自分ができること(自分の課題)は、また、おもしろいこと(自分の課題)は何か。</p> <p>筆者の意図が自分に与えてくれるようにしてほしい。</p>																														
<p>得意な得意 好きな嫌いな 別の理由</p> <p>とらえかた(感想) 嫌い 他の教科よりも得意だけれど 文章が読んでいるととも風を感ぜなければならぬので 喜ぶ</p>																														
<p>1学期中間考査に向けて</p> <p>希望範囲に達していない文章の読み直しをすすめてみる</p> <p>山月記 前巻を作り直さるために</p> <p>学期の考査で求められる(目標)単位の割合(項目)をすべて取り</p> <p>得意、具体的から抽象概念を読み取る 捨てる特定の得意を意図する読解をする</p> <p>【得意学習の計画(その1)】</p> <p>考査が終了するまでに得意、興味とほ一つ別々の(か、その違い)をどこに求めるか(実践)に理解する。</p> <p>【得意学習の計画(その2)】</p> <p>考査までに問題を全編読解と、自分でつづけては解きなさい</p> <p>【得意学習の計画(その3)】</p> <p>考査について問題読解を解き、考査までには解く読み書きできるようにする。</p>																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学期の考査の達成率</th> <th>読解</th> <th>60%</th> <th>47/51</th> <th>漢字</th> <th>60%</th> <th>51/51</th> <th>書く</th> <th>60%</th> <th>42/48</th> <th>読む</th> <th>100%</th> <th>27/27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>60%</td> <td>47/51</td> <td>漢字</td> <td>60%</td> <td>51/51</td> <td>書く</td> <td>60%</td> <td>42/48</td> <td>読む</td> <td>100%</td> <td>27/27</td> </tr> </tbody> </table> <p>考査に取れた得意学習の割合(目標)に達したことができた。</p> <p>2. 時間をかけたが、得意が必ずしも達成できなかった。または、得意範囲に達できなかった。</p>						学期の考査の達成率	読解	60%	47/51	漢字	60%	51/51	書く	60%	42/48	読む	100%	27/27	合計	60%	47/51	漢字	60%	51/51	書く	60%	42/48	読む	100%	27/27
学期の考査の達成率	読解	60%	47/51	漢字	60%	51/51	書く	60%	42/48	読む	100%	27/27																		
合計	60%	47/51	漢字	60%	51/51	書く	60%	42/48	読む	100%	27/27																			

※学校資料を抜粋して掲載。

でどのような研究を行うことで形にしようと考えているのか、生徒が発表し合う。例えば、観光学部を志望する生徒は、次のような趣旨の発表をした。

「自分は興味のあることが多すぎて、6回生までに志望を1つに絞れなかった。そこで、幅広い分野を学べる社会学に注目するとともに、地域や観光をテーマに取り組んだ5・6年次の探究学習の経験を生かせる観光学部を志望することにした。また、1年次から地

域社会やグローバル化、外国語について学んできた経験を踏まえ、国際教育に力を入れている大学を志望することにした。進学後は、地域と世界のつながりについて研究し、地域の文化や伝統をグローバルに発信していきたい。」

そのように、自身の学びを振り返り、関心や適性、経験を踏まえ、志望する学問分野や大学を考え、高校生活と大学での学びをつなげたキャリアの展望を一人ひとりが語った。

主体的・対話的な
学び合いで切磋琢磨

6年次の9月からは、週1回、主体的で対話的な生徒同士の学び合いによる希望進路実現に向けたグループ活動「校内アゴラ」を実施した。学びを深めたいテーマが近い生徒同士でグループを組み、計画を立て、活動を行った。

例えば、表現力の向上に取り組んだグループでは、メンバーが大入試に向けて作成した、自身の活動の紹介動画を視聴し、ほかのメンバーが「志望動機が弱い」などと助言。既に合格が決まっている生徒も参加し、これから入試に臨む生徒に助言していたという。

個別学力検査の過去問題を題材に学び合いを実践したグループでは、事前に各自で取り組んだ問題について、生徒同士で解説し合ったり、別解を出し合ったりした。

「自分と近い目標を持つ仲間が、どんな思いで入試に臨もうとしているのか、自己実現を図ろうとしているのかを知り、刺激を受けていたようです。切磋琢磨する雰囲気

気も醸成されていたように思いますが」(寺沢先生)

徹底した振り返りと内省によって自己を把握し、「マイ・ストーリー」を語る生徒が協働して力を高め合った成果は、冒頭に述べた21年度大学入試の結果に表れた。「自分の関心や将来実現したいことを踏まえて学部・学科選びができたことが、総合型選抜で評価されるとともに、一般選抜の受験者の学習意欲の維持にもつながり、最後まで志望を貫くことができました」(小島先生)

今後の課題は、生徒一人ひとりの将来像に、より合致した大学・学部選びを支援することだ。

「将来の目標と、大学・学問との接続がまだ弱いと感じています。自己理解を深め、目標が明確でも、学部・学科の情報が不足し、ミスマッチが起こることがあります。自分が関心のある社会課題を研究するためには、どの学問を学ばよいかといった点はもちろん、生徒が具体的な学科学名や教授名まで挙げられるように、支援していきます」(太田先生)